

AmaDropプロジェクト

(陸上で大苗化したアマモ苗を船上から投下し海底で自然活着を狙う定植方法)

1 事業の趣旨と目的

アマモ場再生の課題のひとつである費用の削減のために、陸上で大苗化したアマモ苗を船上から投下し海底で自然活着を狙う定植方法の実証実験を実施する。苗は『令和7年度 みんなの里海づくり支援<研究支援>』に申請した『アマモ苗用の牡蠣殻固形培地の作成及び播種育苗に関する研究』で作成したアマモ苗を用いる。

2 事業の内容

ボートから海底に向けて投入し定植する実証試験を兵庫漁業協同組合の協力の下で、兵庫県神戸市兵庫区（兵庫城址前運河）で実施する。

実施計画

手法	AmaDrop(アマドロップ)
使用するアマモの種	生態系の保全と遺伝的多様性の維持の観点から現地アマモの種を使用
牡蠣殻	セルカロングタイプ（ト部産業） 形状：粗砕（あらかじめ）2～4mm
投入する苗の数	10～20株（予定）
調査手法	ダイバー潜水による写真撮影と定点観測

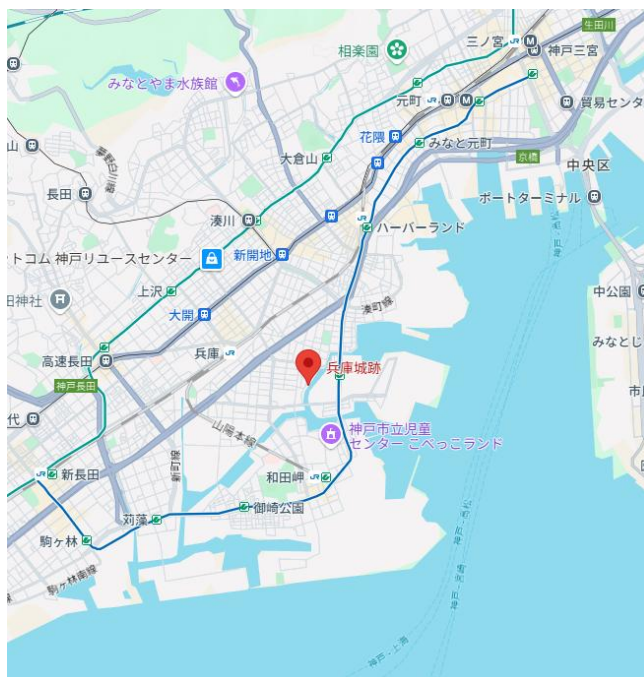


図. 実証実験予定地

本事業の期待する成果は、従来に比較して低コストでのアマモ場再生技術を提供するものであり、廃棄処分に窮していた牡蠣殻の再利用の用途拡大を可能とする。

更にはアマモ場造成を通じた里海づくりに際して、アマモ場の造成技術については海に牡蠣殻ポットを投げ入れることでアマモ場造成ができることから、エコツーリズムに含むことで人と資金を呼ぶことができる。アマモ場の利活用についてはアマモ場面積の増大により、ブルーカーボンの資金を受けられることが考えられ、実際に今も「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」としてブルーカーボンによる資金を受けており、ダイバーを頼まないでアマモ場を造成できればこの資金をアマモ株の購入量を増やすなど振り分けることが可能となる。